

令和4年度 バウム 事業報告書

1 総括

令和4年度も3年度と同様に福祉就労と一般就労の為の支援の充実を中心課題とした。そしてそのためには、利用者一人ひとりの自己肯定感が大切であるという考えを職員間で共有、確認しながら、事業に取り組んできた。2年度下半期以降この方針を掲げてきたが、徐々に職員の間で定着してきているように感じる。同時に新型コロナウイルスの感染症への対策もあり、令和元年度以降、利用者、職員共に気が抜けない日々が続いている。3年度迄は事業所内での感染拡大はなかったが、4年度は11月下旬に利用者、職員合わせて10名程度が罹患する事態が起きてしまった。重症者がいなかったことに安堵しているところであるが、引き続き基本的な感染対策の実施に取り組みたい。

令和2年度途中の管理体制変更から2年半が経過し、多くの利用者は概ね落ち着いて過ごせており、活動も軌道に乗ってきていると感じている。事業の実施状況は3年度から大きな変化はなかったが、利用者の気持ちの安定化、外部実習などによる一般就労に向けた準備、自己表現の機会の保障などの面で徐々に充実が図られているほか、職員の人材育成も概ね順調に進んでおり、支援スキルの全般的な向上がみられている。

2 事業概要

1) 施設名	バウム
2) 事業種別	就労継続支援B型
3) 所在地	東京都小平市学園西町三丁目24番18号
4) 経営主体	社会福祉法人 未来
5) 利用定員	20名
6) 利用現員	26名（令和5年3月31日現在）
7) 法人認可年月日	平成14年12月11日
8) 事業開始年月日	平成23年 4月 1日
9) 職員	管理者 1名
	サービス管理責任者 1名
	生活支援員 3名（常勤換算 2.1）
	職業指導員 2名（常勤換算 1.5）
	目標工賃達成指導員 1名（常勤換算 1.0）

3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現の支援
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
- 3) 安心と希望の持てる生活

4 基本方針

- 1) 福祉就労の充実を図り、作業を通して、生活能力、就業能力、社会性の向上等基本的事項の支援を行う。
- 2) 一般就労に必要な生活リズムの構築、生活能力、社会性、就業能力の向上等基本的事項の支援を行う。

5 利用者の受け入れ基準

- 1) 作業や訓練等に対して意欲的である。
- 2) 自力での通所ができる。(公共交通機関の利用が可能である。)
- 3) 反社会的、非社会的行動がない。
- 4) 衛生管理ができる。
- 5) 身辺自立している。

6 実施事業（活動内容）

1) 作業

- (1) ダイレクトメール作業
- (2) 清掃作業（公園清掃、アパート清掃）
- (3) 資源回収作業
- (4) その他受注作業

2) 行事

- | | |
|-----|-----------|
| 4月 | 多摩六都科学館見学 |
| 10月 | 一泊旅行（栃木県） |
| 12月 | 木下大サーカス観覧 |

3) その他の活動

毎朝、事業所周辺の清掃（地域との関係作りや社会奉仕の意識の向上を図った。）

7 日 課

- | | |
|-------|--------|
| 8:45 | 体操・朝礼 |
| 9:00 | 作業 |
| 10:00 | 休憩 |
| 10:05 | 作業 |
| 11:00 | 休憩 |
| 11:05 | 作業 |
| 12:00 | 昼食・休憩 |
| 13:00 | 作業 |
| 14:00 | 休憩 |
| 14:05 | 作業 |
| 15:00 | 休憩 |
| 15:05 | 作業 |
| 16:00 | 休憩 |
| 16:05 | 作業・清掃 |
| 16:55 | 片づけ・終礼 |
| 17:00 | 退勤 |

※ 毎週水曜日は16:00で終了（事業所別職員会議の為）

※ 毎月第2火曜日は12:00で終了（合同職員会議の為）

8 重点課題・目標

1) 活動

- (1) 利用者一人ひとりにあった福祉就労を通じての社会参加の促進
 - ① 通所の安定化

面談等により、精神の安定を図り、安定した通所により生活リズムの構築を支援する。

【成果と課題】

日常の活動の中で、必要に応じて面談を行い、精神的に不安定になった際は話を聴く、助言を行うなど個々の利用者の状況に合わせた対応を行った。自宅療養で長期休みの利用者が1名、入院による長期休みの利用者が1名いたが、全般的に通所は安定しており、76%の通所率となった。自宅療養中の利用者とは定期的に連絡をとり、健康面や生活状況の確認を行った。

(個別対応の例)

- ・安定剤の服用が習慣化されていない利用者1名に対して5月から服薬ノートにより服薬のチェックを確認することで、習慣化を図った。波はあるものの服薬の状況の改善とともに、精神面の安定化は徐々に進んでいる。
- ・周期的に気持ちが不安定になる(興奮状態になる)利用者1名の毎日の状態を記録し、家族に情報提供を行った(主治医への相談時に使用)。周期の傾向は少しずつ把握できているが、原因の究明には至っていない(令和3年度4月から実施)。
- ・遅刻の多い利用者の通所時間を毎日記録し、毎月の面談により遅刻がなかった日数を本人に示すことで、遅刻改善の動機づけを行った。令和3年4月から実施し、昨年度はあまり効果がなかったが、4年度になり、遅刻しなかった日数をシールで視覚的に示すことで少しずつ効果が出てきている。

② やりがいを感じる作業の実施

作業等を通じて集中力や持続力を身につけるとともに、自己肯定感を得られるように支援する。

(達成感、仲間意識や帰属意識の醸成、居場所としての役割、責任感の醸成など)

【成果と課題】

全般的には日々の作業の継続により集中力や持続力は身につけており、概ね安定して作業が行えているが、周期的に気持ちが不安定になることや、体調の悪化により、意欲や集中力が低下しがちな利用者も少なくない。その都度話を聞くことや、静養することで対応し、個々の状況に応じて作業が継続できた。また、施設外実習には多くの利用者が意欲を示しており、計18名延べ92名の利用者が参加した。環境の変化が苦手という理由で、実習に消極的だった利用者1名も今年度初めて参加し、良い経験になったとの話があった。

また、昨年度末から朝礼を利用者の進行で行うという試みを始めた。希望を募ったところ5名の利用者から立候補があり、順番で進行を行った。11月には2次募集を行い、新たに4名の応募があり、昼礼、終礼も利用者の進行で行うこととした(就労移行支援への移動や長期休みなどにより、3月末現在8名の利用者が参加)。経験により皆進行の技術に向上がみられており、1名の家族からは役割を与えられたことが意欲の向上につながっているとの話があるなど、人前で大きな声で話すことが、意欲の向上や自信につながっているように感じる。

③ 社会人、職業人としての成長の支援

作業や活動を通じて、社会性、協調性、ルールの順守等の必要性を伝えていく。

不安感や感情コントロールが苦手なことで、協調性や社会的なルールの順守に課題を抱えている利用者も多いが、令和2年度から徐々に改善がみられ、令和3年度以降利用者間のトラブルが大幅に減少しているほか、ルールの順守など集団の秩序も概ね取れている。

④ 工賃

作業の安定供給、新規作業の開拓等により目標工賃を以下のように設定する。

【成果と課題】

新規作業の開拓は積極的に実施できなかったが、作業は安定して供給でき、工賃は下表のよ

うになった。

	令和3年度 実績	令和4年度 目標	令和4年度 実績
時給	205 円	190 円	228 円
日給	1,185 円	1,100 円	1,284 円
月給	20,647 円	20,000 円	21,993 円
最高月給	42,750 円	32,000 円	42,050 円

(2) 就労移行支援へのステップアップの支援

本人の希望や日常の評価から、就労移行支援事業所へのステップアップ対象者を選抜し、実習等を通してステップアップを行う。

【成果と課題】

令和4年4月に1名が就労継続支援A型に移行したほか、令和4年6月1日に1名が就労移行支援事業所へステップアップを行い、利用継続中である。その他就労移行支援事業等へのステップアップが可能と考えられる利用者5名が8月以降、就労移行支援事業所で体験実習を行い、内1名が令和5年4月から就労移行支援を利用することとなった。

2) 人材育成

- (1) 職員の連携強化（情報共有・相互補完など）
- (2) 中核職員の育成
 - ①利用者支援スキルの向上
 - ②事業管理に必要な事務の知識向上

【成果と課題】

- (1) 職員の情報共有は概ねスムーズに行われており、連携協働体制はよく取れている。
- (2) 日々のミーティングでの意見交換や現場の支援を通じての指導、また昨年度から実施している個別支援計画の評価や見直しの素案作成を行うことで、支援方針の統一が図られているほか、利用者の状況分析や課題整理の力に向上がみられる。今後、課題解決に向けた提案力の向上が課題といえる。

3) 経営管理

- (1) 訓練等給付費の安定確保
 - ①1日平均利用者20.8人（26人在籍、利用率80%）を目標とする。
（令和3年度実績—1日平均利用者数20.2人。26人在籍、利用率80.4%。）
 - ②利用者確保のため、他事業所、就労支援センター及び特別支援学校などからの実習を積極的に受け入れ、利用につながるよう働きかけを行う。
 - ③就労移行の期限超過の利用者の受け入れを推進し、就労へも再チャレンジを支援すると共に、利用者の確保を図る。

【成果と課題】

- ① 新規利用3名、退所3名により、4年度末の在籍者数は年度当初と同じ26名となった。
1日平均利用者数は20.3名となり、目標には達しなかったが、昨年度を0.1人上回った。実績の微増と新規加算の取得により、給付費収入は約4,310万円となり昨年度の4,120万円と比較し190万円増額となった。
- ② <令和4年度実績>
 - 見学者 13名（支援機関紹介12名）
 - 内実習者 8名
 - 内利用契約者 5名

- ③ 就労移行支援事業の期限超過者から1名の利用相談があったが、体験実習の結果、本人が利用を希望しなかった。理由は騒々しいからとのことだった。

(2) コスト削減
節電節水に取り組む他、無駄な支出を抑え、コスト削減を図る。

【成果と課題】

使用していない場所の電気やエアコンの消し忘れ等は徹底に至っていない。備品購入については、伺い書を使用することで無駄な支出は抑えられた。

(3) 計画的な予算執行
月次試算分析を丁寧に行い経営状態の把握に努める。

【成果と課題】

月次試算の分析を丁寧を実施し、計画的に予算の執行ができた。

(4) 経営的視点の共有
毎月の職員会議で月次試算報告を行うことで、事業所の財務状況について職員の理解を深め、経営的視点の共有を図る。

【成果と課題】

計画通り報告を行い、大まかな経営状態は全体的に把握できている。

9 その他の成果と課題

- 1) 11月28日から12月1日にかけて、新型コロナウイルス感染症に利用者8名、職員3名の計11名が罹患したが、重症者はいなかった。11月30日以降、通所を継続した利用者は7名と少数であったため、感染対策を実施しながら活動を継続した。12月5日には多くの利用者が通所を再開し、概ね通常の活動に戻ることができた。
9月に希望する利用者、職員に対して新型コロナウイルス4回目のワクチン接種を、12月にインフルエンザワクチン接種を実施した。

10 事故等報告

- 1) 11月 退所後の正午頃、利用者1名が帰宅途中で踏切にて電車と接触し、救急搬送された。足を複数箇所骨折し、入院となった。12月下旬に退院したが、体調の不安を理由に利用終了となった。

11 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日
2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間
(2) 開所時間 午前8時45分～午後5時
(3) 年間延開所日数 243日間 (前年度 242日)
(4) 平均活動時間 7時間

12 利用状況

- 1) 利用者延人数 4,932人 (前年度4,898人)
2) 1日平均利用人数 20.3人 (前年度20.2人)
3) 施設外就労等実人数 18人 (前年度15人)

4) 施設外就労等延人数	92人 (前年度111人)
5) 体験実習受入実人数	8人 (前年度8人)
6) 体験実習受入延人数	31人 (前年度56人)
7) 1日平均実習受入人数	0.13人 (前年度0.23人)

1.3 利用者状況 (令和5年3月31日現在)

1) 年齢

20歳未満	1名
20歳以上30歳未満	11名
30歳以上40歳未満	7名
40歳以上50歳未満	5名
50歳以上60歳未満	2名

2) 障害の状況

手帳不所持	2名
愛の手帳3度	5名
愛の手帳4度	11名 (内身障手帳所持 1名)
身体障害者手帳1級	1名
身体障害者手帳3級	3名 (内精神手帳所持 1名)
身体障害者手帳5級	1名 (内愛の手帳所持 1名)
精神保健手帳2級	5名 (内身障手帳所持 1名)

1.4 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

1.5 防災

災害時避難訓練を年2回実施した。また、3月に当法人と小平手をつなぐ親の会との共催の防災訓練に参加した。